

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年2月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103920
法人名	社会福祉法人 陵風会
事業所名	グループホーム 西谷山
所在地	鹿児島県鹿児島市上福元町5604番地 (電話) 099-260-1343
自己評価作成日	平成24年10月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・共同生活において明るい家庭的な雰囲気の中で、日常生活のお世話及び生活リハビリを行うことにより利用者がその有する能力に応じた生活ができるよう明るい笑顔の絶えない雰囲気作りを念頭において運営を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ホーム独自の理念を職員の話し合いで作成して、「あなたの声に耳をかたむけ、あなたがあなたらしく」の理念を共有している。理念に基づいて、戸外レクリエーション活動や排泄の自立支援への取り組み等、利用者の立場に立ったサービスを提供できるように努めている。
- ・地域行事や清掃作業への参加、小・中・高校生の職場体験等の受け入れ、地域との交流やつながりを大事にしている。
- ・母体法人が協力医療機関であるので、24時間医療連携ができており、利用者や家族にとって安心できる環境となっている。
- ・職員の勉強会の年間計画を立てて、毎月テーマを決め実施しており、ケアの専門性を高めるため資格取得への取り組み等、サービスの質の向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作り、毎朝朝礼後に職員一同理念を唱和することにより意識付けし、日常の介護に活かすよう努力している。	理念は、職員で話し合っって独自のものを作っている。事業所内に掲示し、朝礼後に唱和し、理念を念頭に置いて職員はよりよいサービスが提供できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入しており、地域の行事（十五夜・奉仕作業など）に参加し、交流を図っている。近隣の方々とは、気軽に声かけし、普通に接している。	町内会に加入し、地域の行事や奉仕作業に参加している。小・中・高校生の職場体験等の受け入れや踊り等の慰問やボランティアも受け入れている。近隣住民との交流も心がけ、地域とのつきあいを積極的に行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	小学生の学習、中学生の職場体験学習、高校生の実習など積極的に受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、現状報告・情報交換などを行い、サービスの向上に活かしている。外部評価についても報告している。	会議には、利用者や家族・民生委員・地域包括支援センター職員・関係医療機関看護師等が出席している。年に1回は避難訓練に併せて開催し、消防署職員も出席依頼をしている。外部評価の結果や活動内容等を報告し、意見交換を行い、サービスの質向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村とは、常に連携を図り、現状報告や相談を行って、サービスの向上に努めている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席している。福祉関係で、必要に応じて担当課へ出向き相談や情報交換を行い、関係づくりを心がけている。介護相談員を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルがあり、職員は定期的に行う勉強会や日々の介護の中で勉強しており、具体的な行為を理解している。	入職時に、事業所の基本方針を説明し、毎月勉強会を実施する中で、身体拘束をしないケアについて、マニュアルを基に年2回話し合っている。職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組み、日中は玄関の施錠はせずに、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症高齢者の身体的・精神的な理解を深めるための勉強会を設けている。入浴時や更衣介助の時など身体確認を行ない、見過ごされることのないように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に学ぶ機会を設け、活用できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や解約について、利用者及び家族に十分な説明を行い、理解し納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	第三者委員などに相談できるように説明し、玄関受付に意見箱も設置している。また、利用者の意見・不満・苦情等に傾聴し納得のいく解決法を探している。ご家族へも来所時や便りなどを利用し、声を聴けるように心がけている。	利用者からは、日頃の生活の中で話す機会を積極的に持ち、意見や要望を聞いている。家族からは、家族会や面会時を活用し、要望等を聞きカンファレンスで話し合い、解決できるように努めている。また、必要に応じて運営推進会議にも報告し、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議・朝礼・カンファレンスにて意見を交換し、運営に反映している。また、そこで出た問題点など職員全員で話し改善している。	管理者は、毎月の職員会議やカンファレンス等にて、職員から運営に関する意見や要望等を聴取している。また、日常的にコミュニケーションを取るよう心がけており、代表者にも報告し、意見や要望・勤務への希望についても反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	和気あいあいとした、働きやすい雰囲気作りに努めている。また、職員の資格取得に向けた支援を行うとともに、職場環境・条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会などに積極的に参加し、サービス及び知識の向上に取り組んでいる。新入職員に対しては、入職後研修も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>定期的に研修会に参加し、交流の機会をつくり、共通の悩みや質の向上に向けて情報交換など行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	利用者本人を始め、ご家族・関係事業者から生活歴や傷病、自宅での過ごし方など詳細に情報を集め、少しでもスムーズに安心して生活していくことが出来るよう努めている。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	家族からの相談には時間をかけ、入所に至るまでの経緯やご家族の意向、困っている事、今必要なことなど聴き、受け止める努力をし、家族が安心できる関係作りに努める。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	本人や家族が必要としているサービスが困難なケースも相談を受け必要に応じて各関係機関に相談し、調整等対応している。		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	生活のあらゆる場面において、出来ること・出来そうなことを一緒に行い、共に支え合う関係を築く努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・家族会・行事などに参加して頂き、暮らしの様々な出来事を伝え、家族と一緒に情報を共有し支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の都合にも配慮しながら協力を頂き、面会・外出・外泊の支援をもらっている。馴染みの方々の訪問の際には、くつろげる場所を提供し、ゆっくりと過ごして頂けるよう支援に努めている。	友人や知人の訪問があったり、手紙や電話などの支援を行い、継続的な交流ができるようにしている。墓参りや自宅訪問への外出について、家族と協力し、できるだけ希望に添えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活から利用者同士の関係を把握し、会話やレクリエーションなど楽しむ事が出来るよう、座席の調整やグループ分けを行ない、孤立することがないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービス事業所に情報を提供したり、退居後も見舞いなどに出掛け、必要に応じて相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様、家族の要望や想いを聴き入れながら把握に努めている。一人一人のその日の状態を把握し、その人が何を望み・何をしたいかを確認し充実して前向きな生活を送る事が出来るよう支援している。	利用者からは、日常生活の中で言葉や表情などから、真意を押し測ったりして、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には、家族から、入居時や面会時に情報を得て、本人の意思を尊重した生活ができるように、職員が情報を共有して支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に至るまでの経緯や生活歴など、詳細な情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日常生活動作や創作活動など、日々の活動の様子を見守りながら、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や申し送りなどで、本人の課題や必要な援助を検討する機会を持ち、家族の意見も取り入れながら計画を作成し、主治医の意見書も参考にし作成している。モニタリングも定期的に行い、現状にし即した計画作りに努めている。	利用者や家族の意見を聞き、暮らしぶりをもとに、主治医の意見書を参考にカンファレンスにて話し合っている。利用者一人ひとりについて、現状に即したプランになるように計画を作成している。介護計画の見直しは6ヶ月毎であるが、状態が変化した場合は随時見直しており、モニタリングも毎月実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にニーズに沿った内容を記録している。また気づき・体調不良の変化も記録し、食事・水分量・排泄につき等も把握し状態変化にその都度対応している。申し送りなどでも情報の共有に努め介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や要望に応じ、マッサージや余暇活動・外出援助等多岐にわたって援助できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容サービスなど活用している。包括支援センター・民生委員など協力を得ながら支援を行っている。特にボランティアの皆様による踊りなど楽しませて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連絡を密にし、状態の変化など対応している。本人や家族の要望などある時は、家族の協力のもと希望する医療機関受診をお願いしている。	希望のかかりつけ医への支援体制を整えており、通院は職員が対応し必要に応じて家族の協力も得ている。母体法人が協力医療機関であり、24時間体制で医療連携ができています。かかりつけ医や訪問看護師と連携し健康管理を行っており、利用者や家族にとって安心できる環境である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護やかかりつけ医との連携を密にとり、日々の健康管理や定期健診・必要時の受診など適切に対応している。必要時には、いつでも24時間対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して過ごしてもらう為、見舞いや家族の相談にもより本人の状態を見ながら、病院関係者とも情報交換し利用者の不安の軽減に努めるとともに、早期の退院が出来るように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者・家族の気持ちを汲み取り、主治医を含め状況の変化に応じて話し合う機会を設けている。今後もより一層家族との連絡・医療機関や他の各協力機関との連携等も深めながら本人の状態に合わせた支援を行っていくよう取り組んでいきたい。	重度化や終末期に向けた対応については、入居時に事業所の方針を説明している。本人や家族の意向を踏まえ状態の変化がある場合、かかりつけ医と連携し、全員で方針を話し合い、安心して最後が迎えられるようチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備えて、応急手当など研修を受講している。また、緊急時のマニュアルもあり、いつでも見られるように掲示している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時対応のマニュアルを作成し、定期的に避難訓練・消火訓練・夜間想定訓練を行っている。非常食の備蓄も定期的に行っている。</p>	<p>避難訓練は、年2回夜間想定で実施しており、地域住民にも協力の声かけをしている。年1回は、避難訓練を運営推進会議に併せて行っている。災害時対応マニュアルがあり、消火器の使用訓練や消火設備の定期点検も行っている。非常用の食料等も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴を把握したうえで、尊厳やプライバシーを傷つけないよう言葉かけや対応に気をつけている。職員会議等を等を通じ、互いのケアの振り返り、見直さなければならぬ点を挙げ、注意・改善していくようにしている。	人格の尊重とプライバシーの確保については、職員会議等にて確認し、勉強会は年間テーマを決めて話し合っている。日頃から、トイレ介助や入浴支援等の声かけなど、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、個人を尊重したケアが実践できるように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の意見や意向・希望に沿った支援を心がけている。利用者の状況によっては、行動に付き添い、自己決定できるように導いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人ニーズに合った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	訪問美容を活用し、状況に合わせて髪染め、化粧など工夫している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握して苦手な食べ物は代用品で対応している。また、利用者の負担にならない範囲で調理の下ごしらえや盛り付けなど、協力して頂き一人一人の好みや力を活かして食事を楽しんで頂いている。	献立は利用者の好みを聞き、食材購入を一緒に行ったりしている。行事食や弁当・外食等、食事形態に変化を持たせている。利用者も下ごしらえなどできる範囲で手伝っており、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるように工夫し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事・水分量・体重を記録し職員が情報を共有している。入浴後は必ず水分補給を行い、一人一人の状態に応じて、飲み物を変え補水に努める工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと毎日の義歯洗浄を行い、困難な人には職員が手伝いながら支援している。又、利用者によっては歯科受診・往診も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄リズムに合わせてトイレ誘導し、失禁の減少と自立支援に取り組んでいる。失敗しても本人が傷つかないように配慮している。	排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者の表情や些細な情報等を職員全員で共有し、適時に声かけを行い、トイレ誘導をして、できるだけおむつをしないで済むように、排泄の自立に向けたきめ細かな支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便のサイクルを把握し食事・水分摂取などを促し、便秘の予防に取り組んでいる。また、体操やレク等で体を動かし、自然便が出るように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週三回行っているが、利用者の状態に応じて行っており、希望があれば入浴日以外にもその都度対応している。	入浴日や時間はある程度決められているが、利用者の希望を尊重して個別に入浴支援をしている。入浴をいやがる利用者には、ゆずや入浴剤などを使用したり、時間を変更して、気分よく入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態に応じて日中の活動などへ参加して頂き、夜間ゆっくり休めるように支援している。昼食後の昼寝等身体的に無理がない程度で自由にとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用・用法・用量について理解し、変更があった場合も申し送りノートや日誌で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人にあった役割や楽しみが何であるかを把握し、生きがいにつながる様に支援している。また、嗜好品の買い物・ドライブ・外食援助等気分転換の支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人一人の体調や天候をみて、近隣への散歩や月一回戸外レクリエーション（外食）へも出かけている。また、家族の都合にも配慮しながら外出の支援をしてもらっている。	利用者の体調や天気を配慮して近隣を散歩したり、定期的に企画し、花見やショッピング・外食を兼ねたドライブ等、戸外に出かけるようにしている。個別の外出希望には、家族の協力を得ながら、外食や買い物など希望に添えるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が事業所で管理している。自己管理している方は、定期的に確認し、家族の面会時に点検を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望する利用者には、電話や手紙の支援を行っている。遠方に住む家族からの電話にも、本人がゆっくり話すことができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには、季節の花を飾るなど清潔さを保つよう毎日掃除し、また、湿度・温度・換気などの環境にも考慮し、居心地のいい環境作りをしている。貼り絵などで季節感をだしたり、行事の写真を貼って楽しんで頂けるように工夫している。	共用空間は、畳のスペースやソファがあり、好きな場所でゆっくりテレビを観たり音楽を聴いたりできるよう工夫されている。加湿器も置かれている。利用者の作品や写真等が展示され、季節感を大事にした飾り付けがされ、利用者が落ち着いて居心地よく生活できる環境になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自分の好きな場所やソファ、テーブルなどで利用者同士で思いのまま自由に過ごして頂ける様に気配りしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には愛用していた鏡台や置物などを飾り、家族との写真も掲示し、居心地良く安心して生活できる環境作りに工夫している。</p>	<p>居室は、洋室でベッドと整理ダンスが備え付けられている。いつでも外出できるように、衣服がかけてある。家族の写真や本人の使い慣れた鏡台や仏壇・神棚もあり、利用者が安心して暮らせる配慮がされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>全フロアバリアフリーであり、廊下や風呂場等動線に合わせた手すり等の工夫がされ、安全に配慮されている。また、利用者の特性に合わせて戸惑い混乱が生じないように、目印や表札などを手作りし設置している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない